

消化器内科 完全予約制移行のお知らせ

地域医療支援病院としての役割を一層強化するため、2023年4月から

消化器内科 も完全予約制に移行します。

現在完全予約制の診療科

- リウマチ内科 ●糖尿病・内分泌内科 ●血液内科 ●循環器内科 ●脳神経・脳卒中科 ●呼吸器内科
- 泌尿器科 ●腎臓内科・腎不全科 ●眼科 ●消化器外科 ●肝胆膵外科 ●乳腺外科 ●小児外科
- 呼吸器外科 ●心臓血管外科 ●整形外科 ●脳神経外科 ●心療内科 ●放射線治療科
- 婦人科(産科は除く) ●歯科口腔外科

+

消化器内科 (2023年4月1日～)

上記診療科に関しては、**診療情報提供書** + **医療機関からの事前 FAX予約** 両方が必要となります。

ご紹介患者さまをより優先して診療を行い、高度急性期病院としての機能を充実できるよう
努めて参りますので、何卒ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

所要時間
約2分

広報誌アンケート

いつも広報誌『絆』をご覧いただきありがとうございます。

皆様のご意見を参考に、よりよい広報誌をつくっていきたいと考えております。

アンケート回答へのご協力をお願い致します。



check



※別添アンケート用紙での
回答も可能です。

送付先FAX: 075-533-1307
地域医療連携室広報担当

Questionnaire



京都第一赤十字病院

人間を救うのは、人間だ。Our world.Your move.

絆

泉山長老
俊朝

京都第一赤だより

き す な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

新春号

2023年1月発行
vol.86

Contents

- 放射線診断科のご紹介 2
- 放射線治療科のご紹介 3
- 病診連携懇話会開催報告 4, 5
- 当院の頭痛治療 6
- デジタルサイネージ導入 7
- 私、こんな資格持って看護しています 7
- 消化器内科完全予約制移行のお知らせ 8
- 広報誌アンケート

明けましておめでとうございます。

昨年は多くの患者さんを紹介していただき、また、逆紹介や転院など、多大なご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍も3年になり世界の様々な出来事を合わせて考えると、「結局、私たちはどこに向かっているのか?」という不安を感じてしまいます。そして、現実に対応する度に、楽観的すぎると危機管理はできず、悲観的過ぎると幸せが遠のいてしまいそうです。その心の置き所は、いつも悩ましい課題です。

元イギリス首相マーガレット・サッチャーの格言として、「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる」があります。運命を変えていく大きなヒントになる心構えと思っています。

医療においても問題は山積していますが、それぞれの思いをできるだけ言葉にして、方向性とできることを模索していくことが重要と考えます。今年は、皆さまと昨年以上にコミュニケーションを深め、粘り強く模索を繰り返し、結果的によりよい運命を導けるよう努力していききたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

院長 池田 栄人

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280

FAX.075-533-1282

放射線診断科のご紹介

放射線診断科部長 佐野 優子



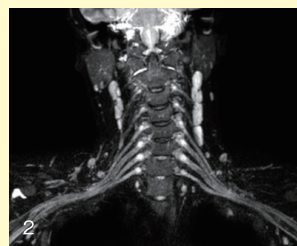
高い質で、最適な検査を

病診連携の先生方には日頃より画像検査のご依頼をいただき、ありがとうございます。

今年度の放射線診断科は診断専門医9名うちIVR専門医3名、放射線技師29名と充実しています。

病診連携はご紹介いただいた患者さんに診断医が直接問診を行いますので、紹介状の情報と合わせて、個々の患者さんに最適な検査となりますよう適宜修正しています。時に急性期の脳梗塞、進行癌などが見つかることがあり、症状がある場合はFAXでレポートを当日送信し、必要に応じて当院の救急科などを受診していただいています。

地域連携枠については、当院が急性期病院であること、MRIが2台体制で院内のキャンセル待ちを多数抱えているため、地域連携に十分な枠を取れず、ご不便をおかけしているかもしれません。急ぐ症例に関しては可能な限り対応致しますのでその旨お伝えください。



1: Ingenia Elition 3.0T MRI
2: 3T-MRIによる
腕神経叢の明瞭な
描出



府内でも有数の検査数 R3年度実績

CT

31986件

MRI

10714件

RI

1090件

血管造影総数

2363件

大学病院レベルの検査を提供

検査機器に関してもAquilion One 320列CTを含む3台、Ingenia Elition3.0Tを含むMRI 2台が稼働しています。3.0TMRIは高磁場の特性から高精細な画像を短時間で撮像できるようになり、ASL,MRSなど大学病院レベルの検査も可能です。

閉所恐怖症の患者さんにおきましてはガントリー内のミラースクリーンを介して検査中に映像や音楽を楽しむことができ、好評を得ております。

急性期病院としての使命をもって

3次救急病院であることから緊急IVRにも24時間体制で対応しており、高エネルギー外傷、産後の弛緩出血、消化管出血、喀血など多岐にわたり貢献しています。今後、血管造影装置とCTが一体となったIVR-CTが導入される予定であり、ますます質の高い治療が可能となります。

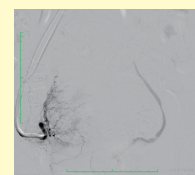
今後も地域の中核病院に相応しい、質の高い診療に貢献出来ますよう、真摯に努力を続けていきたいと思います。



41才女性弛緩出血：
出産後出血が止まらず
ショックバイタル搬送。



右子宮動脈塞栓前



塞栓後に活動性出血は
消失。子宮収縮良好に
退院となった。



後段左より吉田麻里子、松浦莉加、西岡友佳、林佑希子、山下政矩*
前段左より山田香織、森下博之*、佐野優子、一条祐輔*

*IVR専門医

放射線治療科のご紹介

放射線治療科副部長 小谷 直広



患者さんの日常生活を守るチーム医療



放射線治療科スタッフ一同

当科では現在、常勤スタッフ8名(医師1名、診療放射線技師4名、看護師2名、Drクラーク1名)体制のもと、リニアック2台を用いて、がんの放射線治療にあたっています。放射線治療は患部を切除することなく治療が可能のため、身体の機能や形態の温存に優れており、一般に体への負担が少ないとされます。以前は放射線治療と言えば入院治療となることも多かったのですが、最近では外来で治療を受けられる方のほうが明らかに多く、患者さんの日常生活をなるべく維持しながら、がん治療がすすめられるようスタッフ一同で協力して診療にあたっています。

あらゆるがんの治療に携わる

表1は昨年1年間に放射線治療を行った疾患内訳になります。地域がん診療拠点病院として、あらゆるがん種に対して根治的あるいは症状緩和目的に放射線治療を行っており、院内各科・連携病院と協力しながら集学的がん治療に力を注いでいます。院外の先生方からご依頼いただく際は、地域医療連携室あてにFAXでお申込みいただくようお願いしております(FAX:075-533-1282)。地域のの中核病院としてスタッフ一丸となってがん治療に臨んでおりますので、今後ともよろしくお願い致します。

高精度の放射線治療を提供

当院のリニアックは1mm以下の精度で位置合わせを行うことが出来るため、下図のようにピンポイントで病変を狙い撃ち、腫瘍に対して高い治療効果を得ることが可能です(定位照射)。この定位照射を受けられた患者数は、21名(2019年)→39名(2020年)→54名(2021年)と増加しており、今後も高精度な放射線治療を多くのがん患者さんに提供できるよう努めて参ります。

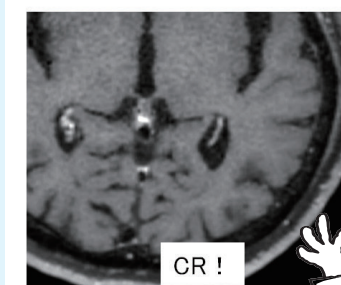
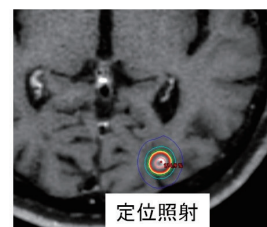
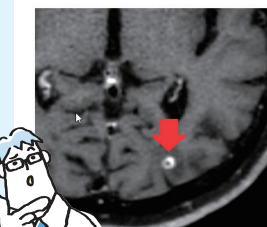


表1

乳癌	85
肺癌	62
消化器腫瘍	43
頭頸部腫瘍	29
血液腫瘍	25
婦人科腫瘍	20
その他	30

病診連携 懇話会 開催報告

【日時】 令和4年10月27日📅 17:30～
【場所】 ハイアットリージェンシー京都



令和4年度 病診連携懇話会開催報告

令和4年10月27日（木）、ハイアットリージェンシー京都にて病診連携懇話会を開催致しました。今年度もコロナ情勢を鑑みて、前回に引き続き、Zoomウェビナーを使用したオンラインとのハイブリッド開催となりましたが、会場参加者78名、WEB参加者72名の計150名と昨年より多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

今回は一般不妊治療や無痛分娩の新たな取り組みについての講演や、コロナ時代の乳がん診療・救急診療について、

そして脳神経外科からの頭痛に関する講演などバラエティーに富んだ内容で開催させていただきました。途中、スライドの切り替えに時間がかかり、ご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。来年度以降も、より良い環境で皆様と有意義なお時間を共有できる会となるよう、企画・実行していきたいと思ひます。

今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

【プログラム】

開会挨拶 17:30～	院長	池田 栄人
本会	座長：副院長 院長特任補佐	福田 互 高階謙一郎
●with コロナ時代の 乳がん診療連携を考える	乳腺外科部長	糸井 尚子
●一般不妊治療ははじめました ●無痛分娩ははじめました	産婦人科医長 産婦人科	高岡 宰 山田 惇之
●脳神経外科の現状について	脳神経外科部長	木村 聡志
●コロナ時代の当院の救急診療	救命病棟部長	堀口 真仁
新任部長・副部長紹介	副院長	沢田 尚久
閉会挨拶	伏見区医師会会長	高謙一郎先生



01 with コロナ時代の乳がん診療連携を考える

コロナ流行下においても乳がん患者様が適切な検査や治療を受けられるよう、完全予約制による密の回避、放射線治療期間の短縮(寡分割照射)などに取り組んでいます。早期乳癌で内分泌療法単独の患者様へは電話診察や、かかりつけの先生方との連携を行い、通院頻度が少なく済むようにしています。

一方、遺伝性乳癌卵巣癌症候群など専門的対応が必要な患者様には、病病連携、産婦人科・遺伝カウンセリング部門・形成外科などの院内連携を強化して治療にあたっています。

乳腺外科 部長 | 糸井 尚子



02 一般不妊治療ははじめました

2022年4月より不妊治療が保険適応となり、当院でも一般不妊治療を開始しました。不妊治療には一般不妊治療(タイミング指導や排卵誘発、人工授精まで)と生殖補助医療(体外受精、顕微授精)があります。不妊症の原因となる子宮内膜症や子宮筋腫の治療にも力を注いでいます。妊娠希望の方や月経異常でお困りの方は、気軽に受診していただきたいと切に願っています。可能な限り患者さんの不安を取り除き、寄り添う診療を実施していきます。

産婦人科 医長 | 高岡 宰



03 無痛分娩ははじめました

病院での分娩数減少への懸念、妊婦さんの要望に応えるべく、無痛分娩を開始しました。当院で無痛分娩を提供するメリットは、①麻酔リスクに対して、24時間の麻酔科専門医対応が可能であること、②分娩リスクに対して、24時間緊急手術対応が可能であること、③他科と連携し他疾患合併の医学的適応の無痛分娩も可能であることです。

現状は開始から間もないことから、症例を限って実施しています。(原則計画分娩等)

希望されたすべての妊婦さんに自然な分娩開始のタイミングで無痛分娩を提供することを目標に、スタッフ一丸となって取り組んでまいります。

産婦人科 | 山田 惇之



04 脳神経外科の現状について

令和4年4月から、脳神経外科は現行体制に変わりました。新たな試み2点につき報告しました。

脳血管内手術：近年、日本でも脳動脈瘤の治療の半数以上が血管内治療となりました。当院でも積極的に導入し、入院期間の短縮を達成しています。

頭痛：片頭痛の治療はCGRP関連薬剤により新たな局面に進みました。様々な症状に潜む片頭痛の特徴について紹介しました。新生児科の西村部長と共に専門外来を開始しています。

脳神経外科 部長 | 木村 聡志



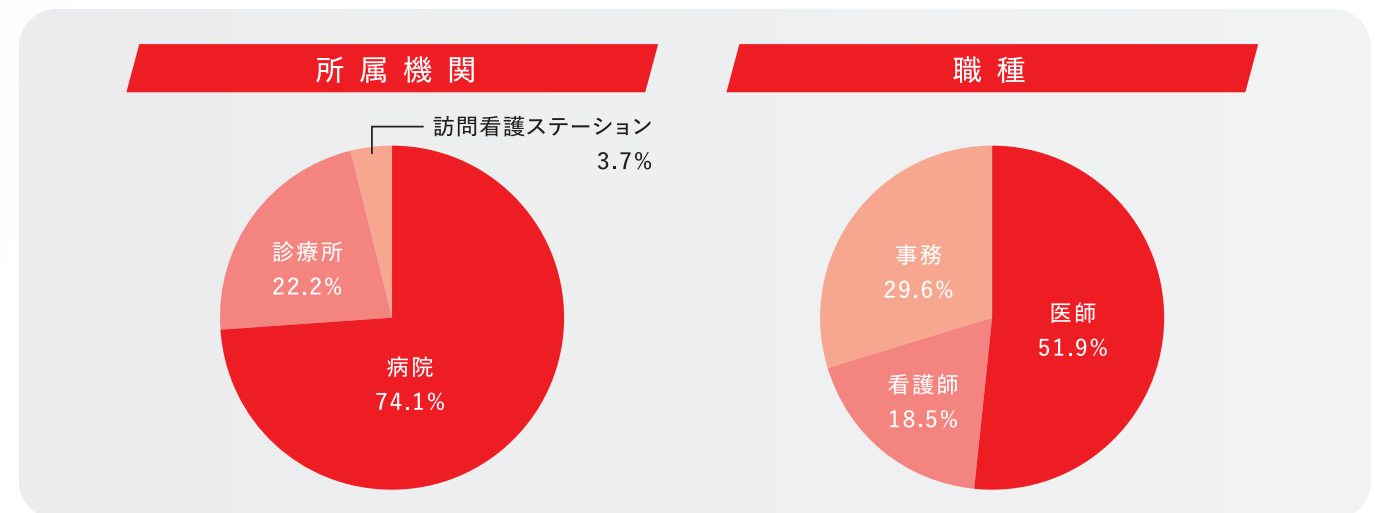
05 コロナ時代の当院の救急診療

コロナ患者発生数がピークを超えると、平常時の医療の「供給≧需要」というバランスが「供給<<需要」となります。このような災害ともいえる事態に対処するためには、部門の"SurgeCapacity"を上げておくこと、そのために「ハコ・ヒト・モノ」を確保しておくことが重要です。この観点から、救命救急センターでの対応を紹介し、今後も併コロナ疾患の診療に影響を与えないように患者さんを受け入れていく方針をお示ししました。

救命病棟 部長 | 堀口 真仁



〈参加者内訳〉



その患者さん、頭痛でお困りではないですか？

当院の頭痛治療

頭痛外来に積極的にご紹介いただきたい患者さん

- 生活支障度が大きい
無理をして仕事/家事/勉強している、仕事や学校を休む、仕事/学校を遅刻/早退する、保健室に行く、月経の度につらい頭痛など
- 頭痛日数が多い
月に4日以上頭痛
- 鎮痛薬の内服日数が多い
月に10日以上鎮痛薬の内服、頭痛発作前に予防的に内服してしまう患者さん
- 鎮痛薬の効果が不十分
- 予防治療の効果が不十分
- 頭痛の診断に難渋
原因不明や典型的でない片頭痛など
- 片頭痛に対する皮下注射薬（CGRP関連製剤）の使用希望のある患者さん

上記に当てはまらなくても、頭痛でお困りの患者さんはご紹介ください。

成人部門

〔脳神経外科 後藤 雄大〕

2022年1月より当院脳神経外科に頭痛外来を開設いたしました。頭痛は誰もが経験するありふれた症状です。そして、多くの様々な診療科の医師にとって日常的に遭遇する主訴でもあります。脳卒中などによる危険な二次性頭痛だけでなく、慢性の経過で生活に支障をきたす片頭痛や緊張型頭痛などの一次性頭痛も適切な対応が必要な「疾患」です。特に片頭痛は日常生活の支障が大きく、仕事にも支障をきたすことが多い頭痛です。最近では、片頭痛の新薬が多く登場しており、片頭痛患者さんがこれらの治療を受ける機会を逃すことのないように地域の先生方と連携が取れればと思っています。

どんな頭痛でも、お困りの患者さんがおられましたら、ご紹介いただければ幸いです。患者さんの頭痛で奪われている日常生活を少しでも取り戻せるように尽力させていただきます。



写真／頭痛チーム（左から）
脳神経外科：後藤 雄大
新生児科：西村 陽
脳神経外科：木村 誠

こども部門

〔新生児科 西村 陽〕

平素から大変お世話になります。私は小児科医として神経疾患や小児の発達に興味を持ち、今まで臨床をしてまいりました。自分自身も閃輝暗点を伴う片頭痛発作を経験したこともあり、2005年にある学会からの帰路で「臨床頭痛学」という書籍に出会い、こどもの頭痛を今後やっていこうと決心しました。幼稚園や小学校低学年のこどもから、思春期に至るまで、小児科の対象年齢の中でさまざまな特徴を持った頭痛があります。国際頭痛分類第3版に準拠した正しい診断を心がけ、患者さんに丁寧な情報提供と理解・納得を確認した上でのエビデンスレベルの高い治療選択を目指しております。また、ご両親にも慢性頭痛がある場合も少なくありませんので、頭痛診療へのアクセスをお奨めしたり、場合によっては、一緒に診療対象とする場合もございます。どうか、お困りの患者さんがおられましたら、どんどんご紹介ください。お待ちしております。

頭痛外来担当表

脳神経外科〔完全予約制〕					
おとな	月	火	水	木	金
1診	—	後藤	—	—	—
2診	—	—	—	—	後藤

こども 小児科 [予約優先]						
		月	火	水	木	金
1診		西村	—	—	—	—
新棟 (午前)		—	—	西村 (神経外来)	西村	—

※月曜日は一般外来患者さん（感冒患者さん等）と同じ時間帯になりますので、患者様にご説明ください

導入！

デジタルサイネージ

事務部 医療支援課
医療支援係長

上久保 直輝



この度、京都府新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関における外国人患者の受入れ体制確保事業の一環として、多様な言語や宗教・文化的背景への配慮等外国人特有の課題に対応した入院治療・療養が可能な体制を整備し、国籍に関わらず適切な入院治療・療養が提供される環境を確保することを目的に、計9台のデジタルサイネージ（※1）を導入いたしました。

館内ルート案内サイネージにはQRコードも表示されており、自身のスマートフォン等でも同じ院内マップを見ることが可能となっています。今後は、外国人の方々だけでなく当院に来院される全ての人に対してデジタルサイネージを通じて病院情報の発信を行い、受診し易い環境整備に尽力して参ります。

※1・・・ディスプレイやプロジェクター等の電子機器を使って、映像を含んだ情報を発信する看板を総称して「デジタルサイネージ」と呼びます。自由自在な映像切り替え等、従来の看板には無い多彩な表現が可能となります。

設置場所

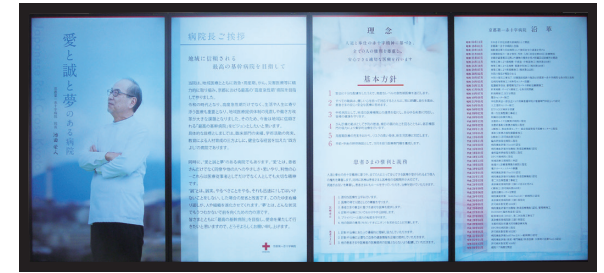
館内ルート案内用置き型タッチパネル：1階中央フロア

専門診療PR用：救急外来、消化器センター、健診センター

お知らせ用：1階正面玄関、地下1階南出入口、

医療支援課前、医事課前

病院PR用：1階中央トイレ横付近



私、こんな資格持って看護しています
certification

緩和ケア認定看護師としての活動

私は2020年12月に緩和ケア認定看護師の資格を取得し、現在緩和ケアチームの一員として活動しています。元々、「緩和ケア」という言葉に対して、人の死と向き合う事は辛い事であり、自分の心が耐えられないのではないかとネガティブなイメージを持っていました。しかし専門学校時代のホスピスでの実習を通して、限られた時間の中で患者さん一人一人と濃厚に関わる事で、その人の人生を知り、またその人生に自分が少しでも関わる事ができる喜びを感じ、緩和ケアに興味を持つようになりました。緩和ケアを受ける患者さんは、身体的苦痛とともに、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛など様々な苦痛をもっています。そのため「疾患」に焦点をあてただけでなく、患者さんを1人の生活者として全人的に捉えることが大切です。まだまだ未熟ではありますが、患者さんの苦痛の緩和、また緩和ケアの魅力を皆さんに伝えられるように精進して参りたいと思います。



緩和ケア認定看護師
奥村 柚香